

Ⅱ 関連団体向け調査

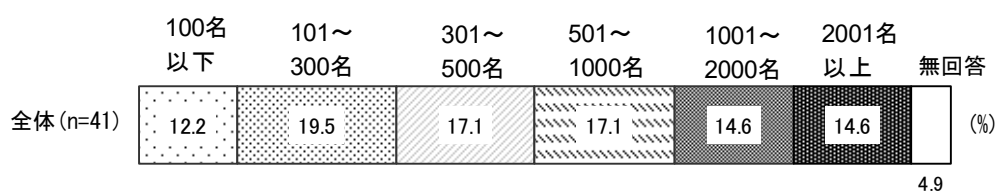
1. 会員（加入者）の状況について

(1) 会員（加入者）数

◇『101～300名』が約2割で最も高い

問1 貴団体の現在の会員（加入者）数についてお答えください。おおよそでもかまいません。

<図表Ⅱ-1-1>会員（加入者）数



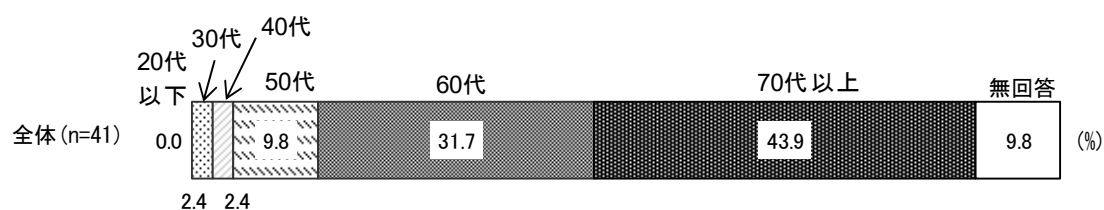
会員（加入者）数は、「101～300名」（19.5%）が約2割で最も高く、以下「301～500名」と「501～1000名」（共に17.1%）が約2割となっている。（Ⅱ-1-1）

(2) 現会員（加入者）の平均年齢

◇『60代以上』が7割台半ばを占める

問2 現会員（加入者）の平均年齢についてお答えください。おおよそでもかまいません。

<図表Ⅱ-1-2>現会員（加入者）の平均年齢



現会員（加入者）の平均年齢は、「70代以上」（43.9%）が4割台半ばで最も高く、「60代」を含めた『60代以上』（75.6%）は7割台半ばを占める。（図表Ⅱ-1-2）

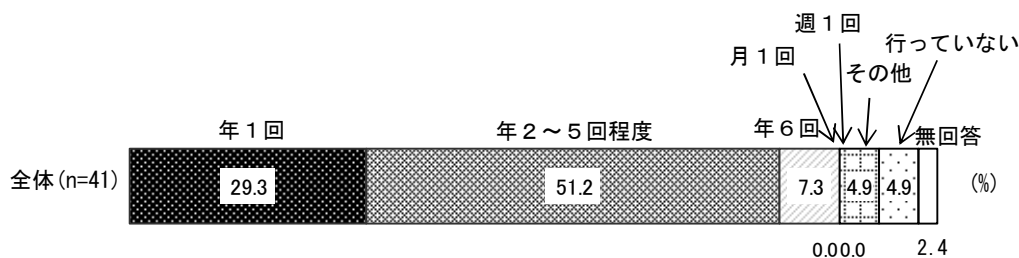
2. 活動状況について

(1) 成果の発表会や展示会等の実施頻度

◇『年2～5回程度』が5割を超えて最も高い

問3 貴団体として行う成果の発表会や展示会等をどのくらい行っていますか。(〇は1つ)

<図表Ⅱ-2-1>成果の発表会や展示会等の実施頻度



成果の発表会や展示会等の実施頻度は、「年2～5回程度」(51.2%)が5割を超えて最も高く、以下「年1回」(29.3%)が約3割となっている。(図表Ⅱ-2-1)

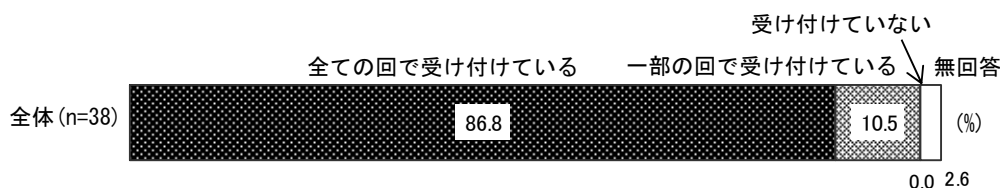
(2) 会員以外の方の参加(観覧、聴講)の受付有無

◇『全ての回で受け付けている』が8割台半ば

【問3で「1」～「6」のいずれかに回答した方に】

問4 貴団体として行う成果発表会や展示会等は一般の方(会員以外)の参加(観覧、聴講)も受け付けていますか。(〇は1つ)

<図表Ⅱ-2-2>会員以外の方の参加(観覧、聴講)の受付有無



「成果の発表会や展示会等を実施している団体」38団体を対象に、会員以外の方の参加(観覧、聴講)の受付有無を聞いたところ、「全ての回で受け付けている」(86.8%)が8割台半ばとなっている。

(図表Ⅱ-2-2)

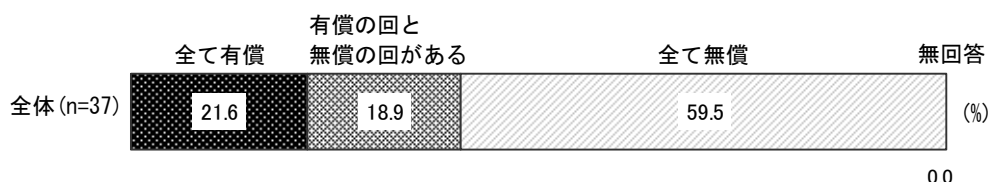
(3) 会員以外の方の参加（観覧、聴講）費用

◇『全て無償』が約6割

【問4で「1」～「2」のいずれかに回答した方に】

問5 一般の方（会員以外）の参加（観覧、聴講）を受け付ける場合、それは有償でしょうか、無償でしょうか。（〇は1つ）

＜図表Ⅱ－2－3＞会員以外の方の参加（観覧、聴講）費用



「成果の発表会や展示会等に会員以外の方の参加（観覧、聴講）の受けている団体」37団体を対象に、有償か無償かを聞いたところ、「全て無償」（59.5%）が約6割となっている。

また、「全て有償」（21.6%）と「有償の回と無償の回がある」（18.9%）が共に約2割となっている。

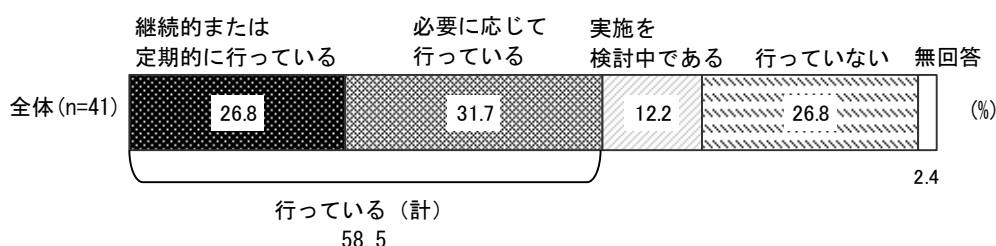
（図表Ⅱ－2－3）

(4) 後継者育成のための事業や活動の有無

◇『行っている（計）』が約6割

問13 貴団体として後継者育成のための事業や活動を行っていますか。（〇は1つ）

＜図表Ⅱ－2－4＞後継者育成のための事業や活動の有無



後継者育成のための事業や活動の有無を聞いたところ、「継続的または定期的に行っている」（26.8%）と「必要に応じて行っている」（31.7%）を合わせた「行っている（計）」（58.5%）が約6割となっている。

また、「実施を検討中である」（12.2%）は1割を超え、「行っていない」（26.8%）は2割台半ばとなっている。

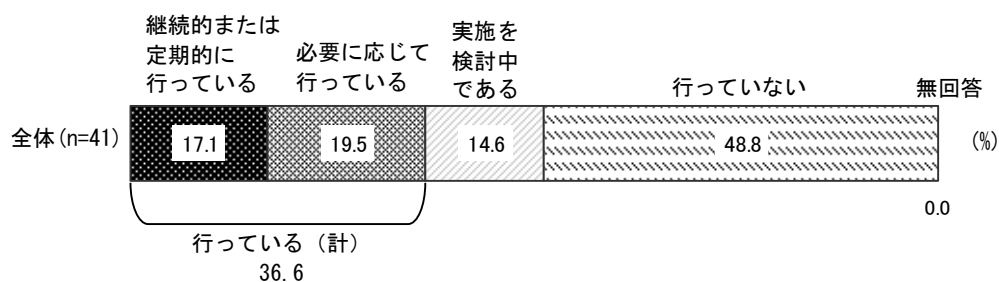
（図表Ⅱ－2－4）

(5) 他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無

◇『行っている（計）』が3割台半ば

問14 他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）を行う事業や活動を行っていますか。（〇は1つ）

＜図表Ⅱ－2－5＞他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無



他ジャンルの芸術文化団体との交流（コラボレーションを含む）の有無を聞いたところ、「継続的または定期的に行っている」（17.1%）と「必要に応じて行っている」（19.5%）を合わせた「行っている（計）」（36.6%）が3割台半ばとなっている。

また、「実施を検討中である」（14.6%）は1割台半ば、「行っていない」（48.8%）は約5割となっている。

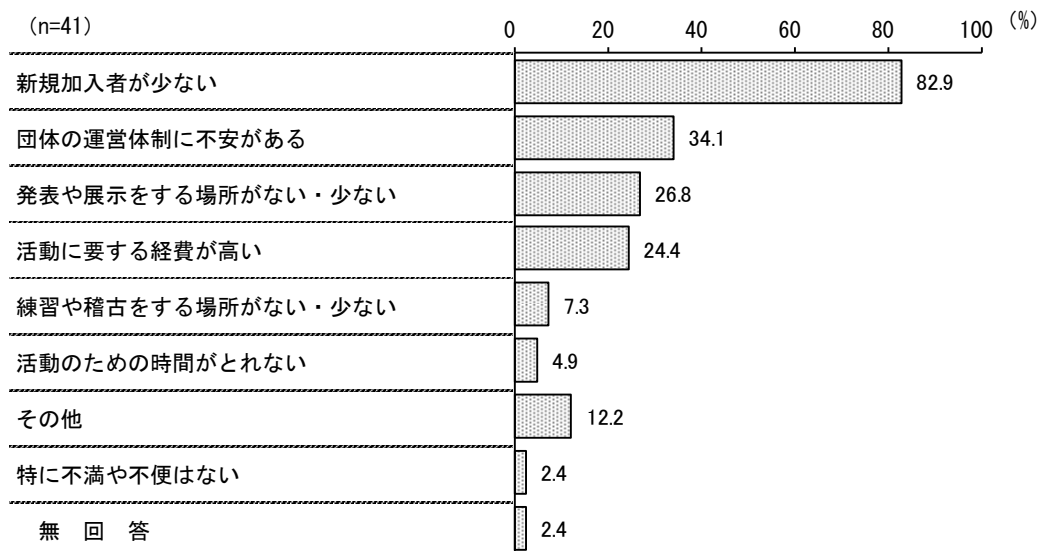
（図表Ⅱ－2－5）

(6) 活動に関する不満や不便な点

◇『新規加入者が少ない』が8割を超えて最も高い

問15 貴団体として事業や活動を行う際に不満や不便を感じたことがありますか。(○は3つまで)

<図表Ⅱ-2-6>活動に関する不満や不便な点



活動に関する不満や不便な点を聞いたところ、「新規加入者が少ない」(82.9%)が8割を超えて最も高く、以下「団体の運営体制に不安がある」(34.1%)、「発表や展示をする場所がない・少ない」(26.8%)、「活動に要する経費が高い」(24.4%)となっている。

(図表Ⅱ-2-6)

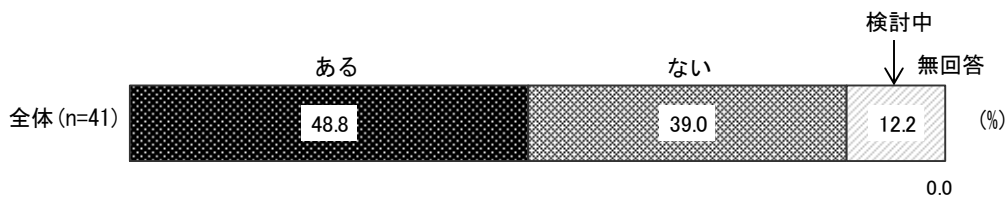
3. 障害のある方への配慮について

(1) 障害のある方が行きやすい工夫の有無

◇『ある』が約5割

問6 貴団体として行う成果発表会や展示会等で、障害のある人も行きやすいような工夫はありますか。(〇は1つ)

<図表Ⅱ-3-1>障害のある方が行きやすい工夫の有無



障害のある方が行きやすい工夫の有無を聞いたところ、「ある」(48.8%)が約5割となっている。また、「ない」(39.0%)は約4割となっている。

(図表Ⅱ-3-1)

(2) 障害のある方が行きやすい工夫の内容

【問6で「1. ある」に回答した方に】

問7 具体的には、どのような工夫を行っていますか。以下の欄にご記入ください。

障害のある方が行きやすい工夫について聞いたところ、以下のような意見があった。

- バリアフリーの施設を会場としている。
- 車イス席又は車イスの観覧場所を用意している。
- 案内係の常設。
- 授賞式に手話通訳を配置している。

(3) 障害のある方の参加希望の有無

◇『思う』が9割台半ば

問11 貴団体が行う文化芸術活動に、障害のある人も参加してもらいたい（参加できる）と思いますか。（○は1つ）

<図表Ⅱ-3-2>障害のある方の参加希望の有無



障害のある方に参加してもらいたいかを聞いたところ、「思う」（95.1%）が9割台半ばとなっている。また、「思わない」は4.9%となっている。

（図表Ⅱ-3-2）

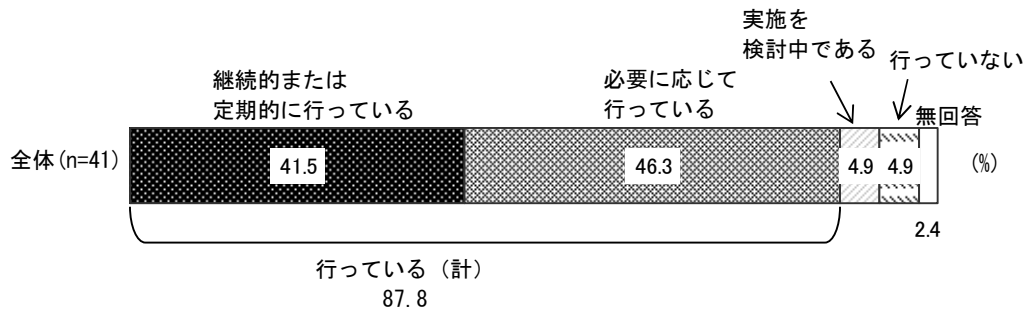
4. PR活動について

(1) 未活動者や未加入者向けのPR活動の実施状況

◇『行っている(計)』が約9割

問8 行っている事業や活動について、未活動者や未加入者向けのPR活動を行っていますか。(〇は1つ)

<図表Ⅱ-4-1>未活動者や未加入者向けのPR活動の実施状況



未活動者や未加入者向けのPR活動の実施状況を聞いたところ、「継続的または定期的に行っている」(41.5%)と「必要に応じて行っている」(46.3%)を合わせた「行っている(計)」(87.8%)が約9割となっている。また、「行っていない」は4.9%となっている。

(図表Ⅱ-4-1)

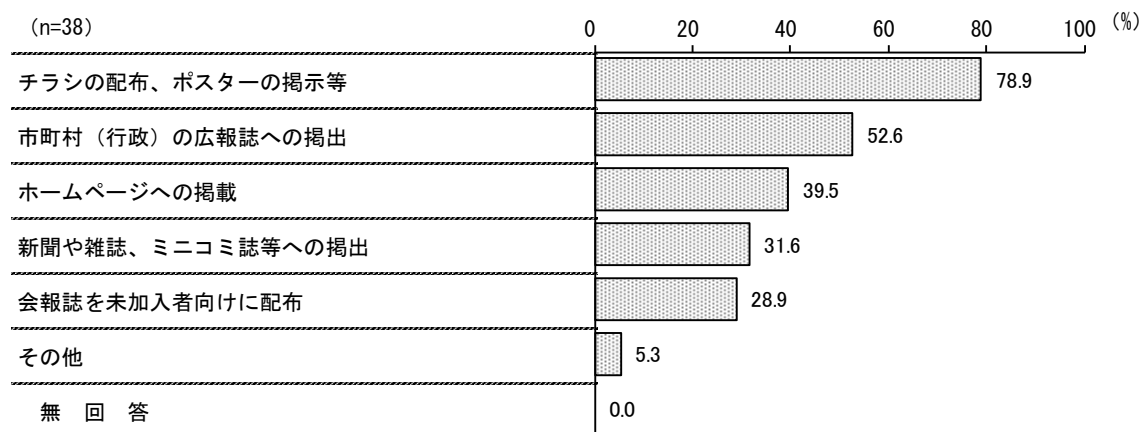
(2) PR活動の方法

◇『チラシの配布、ポスターの掲示等』が約8割と最も高い

【問8で「1」～「3」のいずれかに回答した方に】

問9 PR活動はどのような方法をとっていますか。(〇はいくつでも)

<図表Ⅱ-4-2>PR活動の方法



「PR活動を行っているとした」38団体を対象に、活動方法を聞いたところ、「チラシの配布、ポスターの掲示等」(78.9%)が約8割と最も高く、以下「市町村(行政)の広報誌への掲出」(52.6%)、「ホームページへの掲載」(39.5%)となっている。(図表Ⅱ-4-2)

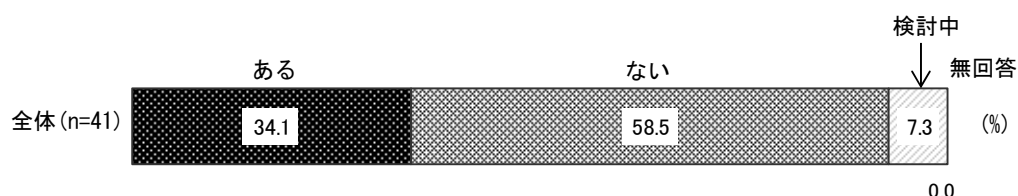
(3) 専用ホームページの有無

◇『ある』が3割台半ば

【すべての方に】

問10 貴団体が公開する専用のホームページ(facebook等を含む)をお持ちですか。(〇は1つ)

<図表Ⅱ-4-3>専用ホームページの有無



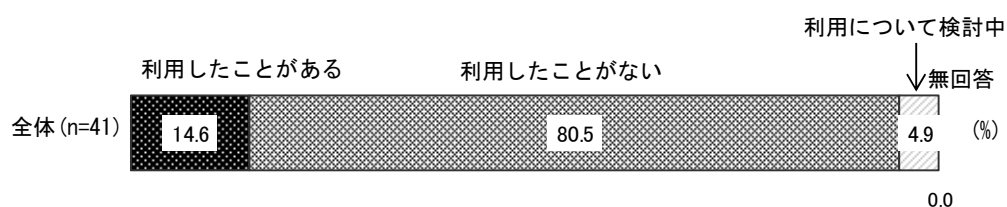
団体専用のホームページの有無を聞いたところ、「ある」(34.1%)が3割台半ばとなっている。また、「ない」(58.5%)は約6割となっている。(図表Ⅱ-4-3)

(4) 「ちば文化交流ボックス」の利用経験

◇『利用したことがある』が1割台半ば

問12 県のホームページ「ちば文化交流ボックス」では地域のイベント情報を掲載していますが、貴団体では、利用したことがありますか。（〇は1つ）

<図表Ⅱ-4-4> 「ちば文化交流ボックス」の利用経験



「ちば文化交流ボックス」の利用経験を聞いたところ、「利用したことがある」（14.6%）が1割台半ばとなっている。また、「利用したことがない」（80.5%）は約8割となっている。

（図表Ⅱ-4-4）

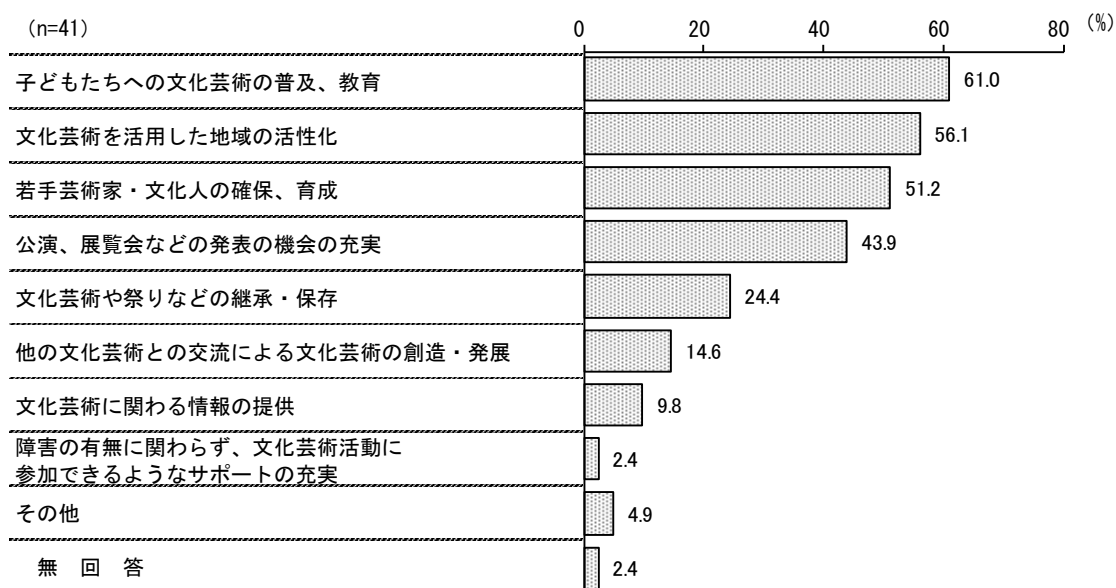
5. 団体が今後担っていききたい役割について

(1) 団体が今後担っていききたい役割

◇『子どもたちへの文化芸術の普及、教育』が6割を超えて最も高い

問16 貴団体として、やっていきたいことや担っていききたいと思う役割は次のうちどれですか。（〇は3つまで）

<図表Ⅱ－5－1>団体が今後担っていききたい役割



団体が今後担っていききたい役割を聞いたところ、「子どもたちへの文化芸術の普及、教育」(61.0%)が6割を超えて最も高く、以下「文化芸術を活用した地域の活性化」(56.1%)、「若手芸術家・文化人の確保、育成」(51.2%)、「公演、展覧会などの発表の機会の充実」(43.9%)となっている。(図表Ⅱ－5－1)

(2) 団体が担っていききたい役割に関する課題や悩みごと

問17 今後貴団体がやっていきたいことや担っていききたい役割に関して課題としていたり悩みごとがありますか。どのようなことでも結構ですのでご自由にご記載ください。

課題や悩みごとについて記述していただいたところ、多くの意見が寄せられた。紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、以下に意見の一部を抜粋して記載する。

- 若い人の加入が少ない、文化芸術活動を継承する人が少ない。会員が高齢化している。
- 日本特有の文化の小学校、中学校での指導。中学校・高校の部活動の協力。
- 財政面での支援。
- 他団体とのコラボレーションを図りたい。

6. 県が実施する事業等について

(1) 「ちば文化」のイメージ

問18 「ちば文化」（千葉県固有の文化、千葉県らしさ）でイメージするものは、どのようなものですか。どのようなことでも結構ですのご自由にご記載ください。

「ちば文化」のイメージについて記述していただいたところ、多くの意見が寄せられた。紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、以下に意見の一部を抜粋して記載する。

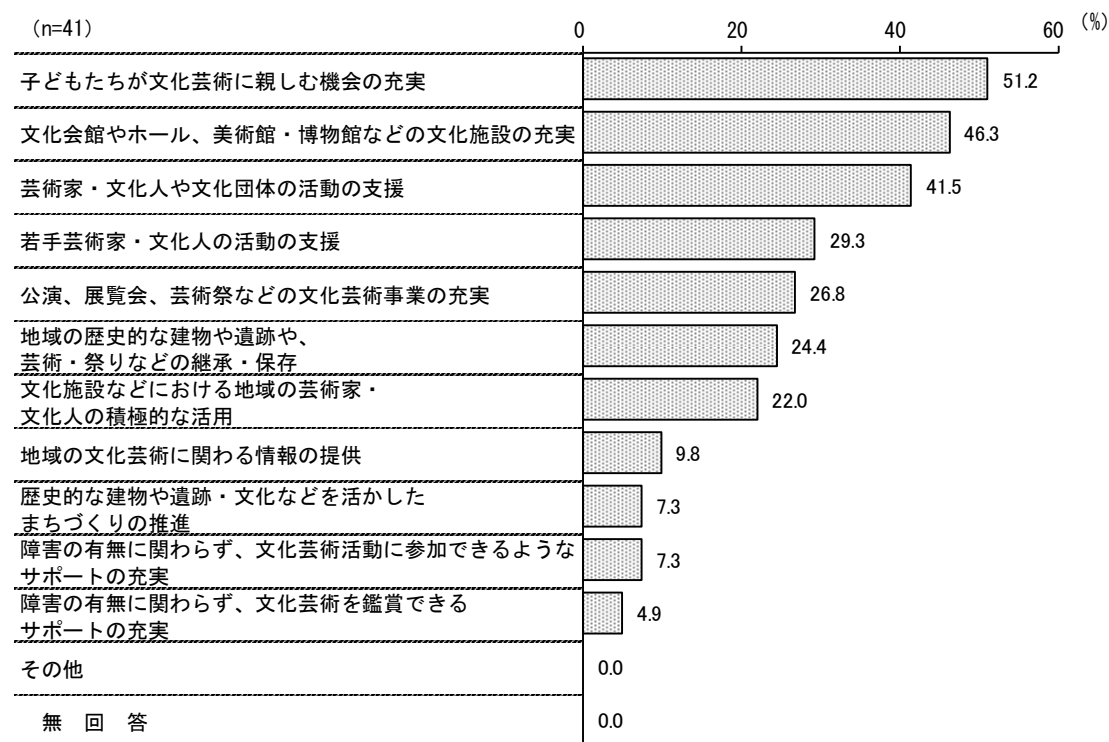
- 祭り、神社・仏閣、芸術祭、遺跡他ありますが、特に固有の文化というイメージはありません（それぞれの良さがあり）。
- 地域生活との関わり、生活文化としての活動といった素朴だけれども心を豊かにする。派手さはなくとも生活に密着して育まれてきたもの。
- 海洋文化。
- 菜の花。チーバくん。
- 自然の豊かさと現代都市の共存。
- 千葉のイメージは自然の明るさ。青（空）、緑（緑地）、黄（菜の花）。
- 東京のベッドタウンの西北部、農漁業が中心の県南西。千葉のイメージは「活力ある元気な千葉」。
- 県の吹奏楽、チバニアン、幕張の浜（夕日が沈む）。
- 祇園祭、神楽、獅子舞、盆踊り。
- 三番瀬、南総里見八犬伝、更科日記、手児奈、ばか面踊り。
- 多様性（都市と農畜水産等）、国際的（成田エアポート、幕張メッセ）。（弱点）歴史資源、観光資源のアピールが弱い。
- 鬼来迎は全国唯一残された重要民俗文化財である。
- 日本の野バラ15種類のうち、千葉県を好んで咲く野バラがあります。千葉の海だけにいる魚もいます。山と魚の自然の共存は素晴らしいと思います。史跡や文化財が多く、温暖な土地で住みやすいし、空もきれいだと思っています。

(2) 振興のために県が担う役割

◇『子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実』が5割を超えて最も高い

問19 千葉県文化芸術を振興するために、県が担う役割はどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

＜図表Ⅱ－6－1＞振興のために県が担う役割



振興のために千葉県が担う役割を聞いたところ、「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」(51.2%)が5割を超えて最も高く、以下「文化会館やホール、美術館・博物館などの文化施設の充実」(46.3%)、「芸術家・文化人や文化団体の活動の支援」(41.5%)、「若手芸術家・文化人の活動の支援」(29.3%)、「公演、展覧会、芸術祭などの文化芸術事業の充実」(26.8%)となっている。(図表Ⅱ－6－1)

(3) 自由回答

問20 その他、県が取り組む文化施策等に対してご意見等がありましたらご記載ください。

県が取り組む文化施策等への意見を自由に記述していただいたところ、多くの意見が寄せられた。紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、以下に意見の一部を抜粋して記載する。

- 若い世代が興味を持ち、参加したいと思う様な施策を考案すること。
- 各文化団体において、先人が築いてきた芸術文化の継承者が不足ぎみである。県内の文化振興を図るために、県と市町村が連携し、文化団体への活動支援や情報の提供、将来の文化活動を担う子供達の文化関係の教育や文化活動の発表の場を設け、文化芸術に親しむ機会の充実を図る。
- 平成30年に施行された「千葉県文化芸術の振興に関する条例第19条「教育における文化芸術活動の充実」」のために重点計画に位置付け、予算をつける。
- 少子・高齢化は日本全体の問題で、今後も長く続くと思われまので、特に「次世代への継承」に注力してはと思います（担い手不足が顕在化してからでは手遅れになります）。
- 文化施策はどうしても総花的になる傾向あり。優先順位をつけて焦点化したい。
- 助成に限らず、さまざまな文化活動に多角的に支援を考えて欲しい。また、文化活動が県内の行政活動の中に積極的に取り込まれ、普及活動、PR活動の後押しをしていただきたい。
- 活動に対しての経済的支援。
- 文化活動には定例に使える会場が必要です。機会均等でのクジ引きはきつい。人数、継続年数、実績のある会に優先権を与えないと、会場問題で弱体化する方向にある。
- 地域の文化活動との連携をしっかりととり、全県をあげて発信できる体制を構築していく。
- 授賞式や開会式に知事のご臨席をいただけると会も華やぎますし、参加した方にも県がその行事に力を入れているという印象づけを出来ると思う。
- 県立美術館の備品の充実を望みます。例えば、工芸品がきたないのでそれをカバーする布とかの用意。
- 県立美術館の会議室の増加や、多目的に使用可能な部屋、スペースを設置し、多くの県民が利用できる施設にしていきたい。
- 利便性の良い音楽ホールの充実（特に千葉市）。
- 今、世界では分断や排外主義の動きが広がっています。そうした中、芸術文化は世界の人々をつなぎ、「共生社会」実現の力になれると信じております。